

第9回日本予防理学療法学会学術大会・第5回日本産業理学療法研究会学術大会
第7回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会

[演題名]

well-being にあふれる日常を再び生み出す短期集中型予防事業

[筆頭演者]

鎌田 大啓 (かまた ともひろ)

[所属機関名]

株式会社 TRAPE

[抄録本文]

地域支援事業は総合事業、包括的支援事業、任意事業で構成されており、介護予防の視点が軸となっています。介護予防とは、要介護状態にならないようにする、または要介護状態であっても状態の改善・悪化防止をするということ、1人1人の高齢者が自分らしいwell-beingな日常を手にすることを実現させるということと言えます。だからこそ直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。

総合事業の対象者は、何かしらの理由で以前と比べ日常生活に不自由さを感じている方々です。しかし一方生活者として地域で生活活動をしている側面もあるので、早い段階で専門職と出会い、元の日常生活を取り戻す介護予防サービスを活用することで、元の日常に戻れるチャンスがある方々だということができます。それを実現する手段が短期集中予防サービスなのです。

しかし、短期集中予防サービスはまだ多くの自治体で未実施状態や取り組んでいるけれど課題と向き合っている状態となっています。自治体からは「実際サービス利用する利用者が少ない」「必要性が浸透しない」などの声も聞かれます。また、上手く運用が進んでいない自治体では、今まで各地域で実施されてきた二次予防事業の延長として短期集中サービスが捉えられており、二次予防プログラムに参加してもらい効果がみられても、プログラムが終了すると再び活動性の低い生活に戻り介護予防効果が継続しないという声もよく聞かれます。

そのような現状に対して、株式会社 TRAPE（以下 TRAPE）は医療経済研究機構らとタッグを組んで2018年に大阪府寝屋川市において、総合事業のモデル実証研究事業（日本理学療法士協会予防理学療法確立を目的とした大規模臨床研究に対する研究助成）を行いました。これは要支援認定をお持ちの方々が短期集中予防通所サービスを活用することで「その方らしい元の日常を取り戻す」ことができるのかを検証するものでした。事業を運営するチームと調査研究チームが合同で実施したプロジェクトでした。TRAPEは、この事業の根幹となる事業運営チームとして、新しい短

期集中サービスの提供内容デザイン、専門職育成（実務指導・教育研修）、事業所運営、プラン作成支援、検討委員会運営、関係者意見調整などを行いました。またこの事業においては行政、市内の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護事業所、市内のリハ団体、管理栄養士や歯科衛生士のみなさんなど多くの関係者の協力のもと創り上げた事業でした。また、研究チームである医療経済研究機構からは、短期集中サービスを利用することで要支援者の介護保険サービスからの卒業に有効であることをRCT(ランダム化比較試験)を通して明らかにすることができました。

今回はこの事業に対する市町村への伴走支援において TRAPE がどのようなデザインで、行政をはじめとした各種関係者に伴走支援を行い「その方らしい元の日常を取り戻す=その方にとっての well-being な日常を再びデザインする」という短期集中予防サービスを生み出したかについてお話をしたいと思います。

[ご略歴]

病院勤務を経て医療法人の介護部門センター長として介護保険の原点である「自立支援」を軸とした各種介護サービスを展開すると同時に、市の介護保険事業者連絡会会長として、行政・多くの介護事業者・住民とともに地域づくりに取り組む。介護現場の可能性をデザインすることができていない現状に対して強い危機感と使命感を覚え、2015年株式会社 TRAPE（トラピ）を設立。「素敵な役割あふれる日常を創る」というビジョンを具現化するために、介護業界の人（経営者・専門職）、組織（事業所）、行政（厚労省・自治体）への伴走支援サービス（well-being 体験&実装）を提供。2017年より大阪大学医学部保健学科医学系研究科招聘教員も兼任。